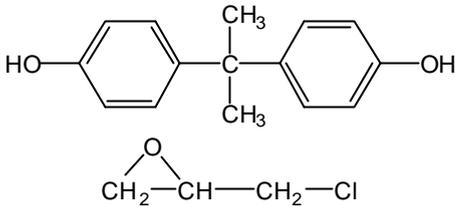


## 化学物質安全性(ハザード)評価シート(要約版)

整理番号	2001 - 36	官報公示 整理番号	7 - 1283 (化審法) 1 - 30(化学物質管理促進法)	CAS 番号	25068 - 38 - 6
名 称	4,4'-イソプロピリデンジフェノールと1-クロロ-2,3-エポキシプロパンの重縮合物(液状のものに限る。)		構 造 式	 <p>原料を示す。</p>	
分子式			分子 量		
市場で流通している商品(代表例) <sup>1)</sup>					
純 度 : 不明					
不純物 : 不明					
添加剤または安定剤 : 不明					
物理・化学的性状データ					
外 観 : 液体					
融 点 : 文献なし					
沸 点 : 文献なし					
引 火 点 : 文献なし					
発 火 点 : 文献なし					
爆発限界 : 文献なし					
比 重 : 1.13 <sup>2)</sup>					
蒸気密度 : 該当せず					
蒸 気 圧 : 該当せず					
分配係数 : 文献なし					
加水分解性 : 加水分解を受けやすい化学結合なし					
解離定数 : 文献なし					
スペクトル : 主要マススペクトルフラグメント 文献なし					
吸脱着性 : 文献なし					
粒度分布 : 該当せず					
溶 解 性 : 文献なし					
換算係数 : 該当せず					

## 総合評価

### 1) 危険有害性の要約

本物質には分子量の異なる様々な製品があり、それらは経口及び経皮経路から吸収されるものと考えられている。

ヒトにおいては皮膚感作性が報告されているほか、職業的暴露による遅延型接触皮膚炎の発症が認められており、フェニルグリシジルエーテルと交差反応を示すことが知られている。また、本物質のヒトにおける発がん性の報告はない。

実験動物では眼刺激性、皮膚刺激性、感作性が認められている。急性毒性としては、歩行障害がみられており、慢性毒性として肝臓及び腎臓の障害がみられている。変異原性・遺伝毒性については、*in vitro* の報告しかないが、報告例は全て陽性である。発がん性については、経皮投与で雄マウスに腎腫瘍、雌マウスにリンパ系/造血系の腫瘍の発生が報告されているが、適用部位(皮膚)での腫瘍発生は報告されていない。生殖・発生毒性としては、流産、胎盤の壊死性変化が報告されている。

本物質は環境中に放出された場合、物理化学的性状から考えて主として土壌及び底質に分布するものと予想される。本物質の生分解性及び濃縮性についてはデータがない。環境省のモニタリングデータはない。水圏環境生物に対する急性毒性は、甲殻類に対しては強い。

### 2) 指摘事項

- (1) 眼及び皮膚に対する刺激性、皮膚感作性を有する。
- (2) 実験動物において慢性毒性として肝臓及び腎臓への障害、生殖・発生毒性として流産、胎盤の壊死性変化を引き起こす。
- (3) *In vitro* の変異原性・遺伝毒性試験において陽性を示す。
- (4) 実験動物において腎臓及びリンパ系/造血系の腫瘍の発生を示唆する報告がある。
- (5) 化学物質管理促進法の第一種指定化学物質に指定されており、排出量の管理が必要である。

参考資料

- 1) (社)日本化学工業協会調査資料 (2001).
- 2) ChemFinder, <http://chemfinder.cambridgesoft.com/> (2001).